

ガーデンシティふかや推進室 [ふかや緑の王国・深谷市櫛引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

JAPAN BIRD HOUSE

第15回ジャパンバードハウスコンテスト2023

鳥の気持ちでハウジング

作品募集

鳥の視点で環境を考える



ジャパンバードハウスコンテストは、遊び心を大切に、鳥の視点で都市の環境を考え、人と人、人と自然とのコミュニケーションづくりを目指します。

【募集部門】

人間審査の部 デザインやアイデアを審査

鳥の審査の部 鳥が巣作り・子育てに使用したら審査に加点

【賞の内容】

最優秀賞 1点 副賞 (深谷市地域通貨ネギー) 1万円

優秀賞 一般の部、小学生の部でそれぞれ1点 副賞 (深谷市地域通貨ネギー) 5,000円

特別賞 数点 副賞 (深谷市地域通貨ネギー) 2,000円

応募用紙 ふかや緑の王国のほか、市役所本庁舎総合案内、公民館で配布。市ホームページからも入手できます。

申し込み 6月1日(休)~9月30日(土)に、作品と応募用紙を直接または郵送でふかや緑の王国へ

※詳しくは問い合わせ先へ

ふかやオープンガーデン『ばらの庭 初夏の庭』

“一番きれいなバラを見ていただきたい”今年も特別公開として、オープンガーデン『ばらの庭 初夏の庭』を38軒で公開します。バラが一番きれいに咲くこの時期に、ぜひご覧ください!

とき 5月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日)午前9時~午後4時

問い合わせ 深谷オープンガーデン花仲間 栗原さん
☎090-7183-3481

※自家用車でお越しの際は、交通ルールを守り、近所に迷惑の掛からないようご注意ください。

※公開するお庭は、花仲間のホームページ(右記QRコード)をご覧ください。



ふかや緑の王国 米づくり体験参加者募集

自分でお米を作って食べてみよう! 田植えから稲刈りまでの米づくりを体験!

とき・ところ 6月10日(土)午前9時~・ふかや緑の王国(田植え)

※田植え以降は4~5回体験を予定し、稲の生育状況により次回以降の日程をお知らせします。

定員 先着20組(2人1組 小学生を含む家族(未就学児不可))

参加料 500円(1組3合程度、収穫量により変更となります)

申し込み 5月17日(水)午前8時30分~電話でふかや緑の王国へ

※脱穀後の精米は11月のあかり展で配布します。



ふかや緑の王国 ホタル観賞会の開催

ホタルの幻想的な光の舞をご覧ください!

とき・ところ 6月9日(金)・10日(土)午後7時30分~9時・ふかや緑の王国

駐車場 花植木流通センター駐車場をご利用ください

※来場の際は、懐中電灯をお持ちください ※天候によりホタルが飛ばないこともあります



『ガーデンシティふかや』『ふかや緑の王国』ホームページのほか、ツイッター(@garden5551)、『ふかや緑の王国』フェイスブックもご覧ください。



手話 de おはなし



手話に興味はあるけど難しそう…。そんなかたも、身近なあいさつからチャレンジしてみよう!

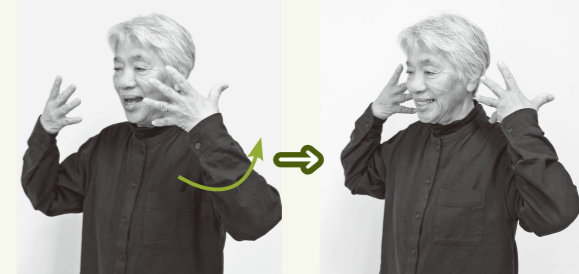
(手話協力 深谷市聴覚障害福祉協会)

夏(暑い)



親指を人差し指にのせた右手拳で首筋をあおぐように動かす

秋(涼しい)



指を広げた両手を顔に近づけ、手のひらであおぐ動作を繰り返す

☎障害福祉課 ☎571-1011 ☎574-6667

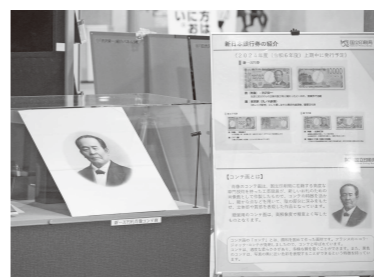
新紙幣 あれこれ



紙幣の原版の基「コンテ画」

紙幣を印刷する作業では、印刷の版面を作る前に、その大元となる原版を彫刻します。

その際、肖像の部分については、彫刻に取り掛かる前に作製するのが「コンテ画」です。コンテという画材を使い、細かな点などをを用いて、陰の部分に深みを



コンテ画は当面の間、市役所1階西側の総合案内近くに展示しています。

もたせ、立体感や質感を表現した作品となっています。

なぜコンテ画を作製するの?

コンテ画は、①参考にした写真において不明瞭な部分を明瞭にする、②紙幣の肖像に適した姿勢に整える、③彫刻の設計図として点の大きさや線の太さ・密度などの構成を決めるために作製されます。

このように、肖像の原版の彫刻は、コンテ画を描く段階から始まっています。そのため、コンテ画の作製は、新しい紙幣の製造に向けた数多くの仕事の中でも、特に重要な作業なのです。

コンテ画の複製が深谷市へ

このたび、紙幣を印刷している国立印刷局から深谷市へ、新1万円札となる渋沢栄一翁の肖像のコンテ画(複製)が寄贈されました(26ページ参照)。贈呈用のコンテ画は、高解像度で複製したとても希少なものです。今後はこのコンテ画を、渋沢栄一翁の顕彰やPRに活用していきます。